

ぶなの森

社会福祉法人 常成福祉会



Vol. 96

2023年10月号

発行：社会福祉法人常成福祉会
丹沢自律生活センター

発行責任者：伊藤崇博

印刷：秦野ワークセンター



INDEX

P2・3 特集 福祉体験プログラム

P4 キラッとひかるひとたち（第13回）

今月の表紙

花鳥デイサービスセンター（生活介護）

アクティビティ／指ヨガ・タクティール
心地良い居場所で、自分のやりたいことを見つけ
て取り組めるようにサポートしています。今日は、
指ヨガ・タクティールでリラックスしました。



5 時間目

福祉体験プログラム

7月13日 木曜日 晴れ
日直 ふくこう

福祉体験プログラムは 16 年前から、コロナ禍を除き毎年、市内の小学校で行われてきました。そして、当法人からも多くの利用者様に参加いただいています。毎年、参加後には、笑顔で「楽しかった」と伺っていました。今回初めて、同行・取材として参加させていただき、利用者の方々が笑顔になる理由がわかりました。8名ほどの小グループに分かれることで子どもたちの笑顔を間近で見ることが出来ます。今年はコロナ禍明けでマスクをしているお子さんがほとんどでしたが、マスクをしていても笑顔が伝わってきました。

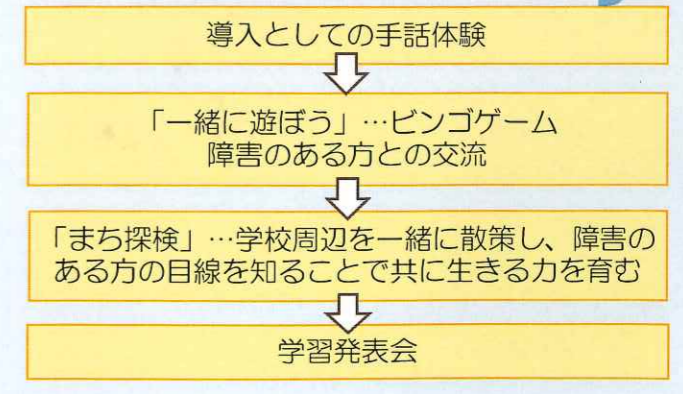
広報委員 穴戸

いつも送迎車の中から登下校中の子どもたちを見掛けますが、普段はなかなかお話しできる機会がないので、今日はたくさんお話しができて、うれしかったです♪



福祉体験プログラムってなに？
社会福祉への理解と関心を高めることを目的に、秦野市社会福祉協議会（秦野市社協）が実施している事業です。

どんなことをするの？
継続性のあるプログラムを目指して、



福祉教育サポーターってなに？

障害のあるサポーター	ボランティアサポーター	地域サポーター
自らの障害や暮らしについて子どもたちに語るのが主な役目。	障害のあるサポーターの援助を中心に、子どもたちの学びを支援する。	子どもたちと同じ目線に立ち、障害のあるサポーターと子どもたちとの橋渡し役を担う。



福祉体験プログラムを通じて子どもたちが障害のある方と触れ合い、地域で困っている人がいた時に自分から声を掛けるきっかけになったらうれしいです。秦野市社協・末吉さん




はじめてのお手伝い
質問タイムの後はビンゴゲームです。地域の方が作った巨大なビンゴカードが各チームに配られ、ゲームが始まりました。カードに書かれた数字が読まれると、「あったー」と大きな歓声が上がります。読まれた数字はパンチで穴を開けるのですが、手の不自由なサポーターの方がパンチをする際には、子どもたちがカードを押さえてあげる姿もありました。初めて障害のある方のお手伝いをした子どももいたようです。

理解は好奇心から
5時間目のチャイムが鳴る5分前から、水筒を持った3・4年生が、大きな声で「こんにちは」と挨拶をしながら、続々と体育館へ集まってきました。子どもたちの元気な挨拶に、サポーターの方々も自然と笑顔になります。そしていよいよ5時間目のチャイムが鳴り、プログラムが始まりました。
サポーター3名と子ども3〜5名でグループを作り、合計8グループに分かれました。さっそくコミュニケーションが始まり、文字盤や手話などを用いてお話しします。自己紹介のあとは、子どもたちからの質問タイムです。元気な声で「はいっ」と手を挙げ、「車椅子のタイヤに付いているカバーの柄は自分で選ぶんですか」、「お風呂はどうしているんですか」、「お家ではどうやって過ごしますか」、「小学校はどこに行っていたんですか」などなど、沢山の質問が挙がりました。文字盤を使って回答されるサポーターの方には、子どもたちが自分から歩み寄り、文字盤を指す指を目で追いながら読み取っている姿がありました。

4年ぶりの開催！
さる7月13日に、広畑小学校の体育館で「福祉体験プログラム」が開催され、当法人事業所の利用者2名が福祉教育サポーターとして参加されました。今回の福祉教育サポーターは、当法人の2名の利用者以外にも、視覚や聴覚に障害のある方や、車椅子を利用されている方など、合計8名の方が参加されたほか、ボランティアサポーターや地域サポーターの方など、総勢21名の方が参加されました。コロナ感染症の影響で、開催は実に4年ぶりとなり、久しぶりに集まったサポーターの方々の間では、自然とお話に花が咲きました。今回初めて参加された方々は、さっそく手話通訳ボランティアの方から自己紹介の手話を教えてもらうなど、和気あいあいとした雰囲気となりました。

常成福祉会の
キラッと光るひとたち
(第13回)

常成福祉会の、個性や頑張りがキラッと光るひとたちを紹介しています。

吉田三咲さん misaki yoshida 
2017年入職。相談支援専門員として丹沢自律生活センター総合相談室に勤務しています。産休・育休を経て今年4月から復職。専門職として働きながら2歳と3歳の子どもを育てるワーキングママです。



ママは相談員



あの人に憧れて

相談支援の研修で現職場の上司に出会い、その人に憧れたことが入職の切っ掛けでした。徹底した本人中心の考え方に感銘を受けましたし、なんとなくモヤモヤを抱えていた私にとつて、とても心に響くものがありました。この人のもとで学びたい。そう思っただけで転職を決めました。

仕事と家庭

出産後、仕事を続けるかどうか迷っていた時期がありました。が、職場から時短勤務の提案をいただき、続けることを決めました。制度的なことだけでなく、同僚や上司の理解や協力がないと両立は難しいと思うので、とても恵まれた環境だと感じています。

現在は時短勤務で、9時〜16時の勤務で働いています。仕事が終わったらすぐに子どもを保育園へ迎えに行き、帰宅後は家事と育児に集中しています。

これからのこと

これからも育児と仕事を両立しながら頑張りたいです。利用者さんが今まで言えなかったことを言ってくれた時はとても嬉しいし、本当にやりたいことを見つけて笑顔になられている姿をみると、自分も幸せな気持ちになる。丁寧な思いを聞きながら、その実現をお手伝いできるように努力していきたいです。



おうちではママ 

夕飯の支度をしながら「リトルマーメイド」を口ずさんでいると、「お母さん歌わないで！」と長女。続けて次女から「ヘタクソなんだから〜！」と言われ、ちょっと凹みました…。

その日は得意の切干大根とひじき煮を作って、娘たちは大喜びでした。(良かった)

我が家の夫は家事を良く手伝ってくれる働き者なのですが、夫がやってくれた家事はどうしても直したくなる場所があったりするもの。…でもとても協力的で助かっています。(←フォローになっていない)

 社会福祉法人 常成福祉会

〒259-1302 神奈川県秦野市菩提 1711-2

TEL : 0463-75-3300

FAX : 0463-75-3377

HP : <https://jousei.or.jp>

E-mail : tanzawa@jousei.or.jp



ホームページはこちら

秦野ワークセンターからのお知らせ

秋の出店シーズンが始まりました。まきの木まつりや市民の日などの秦野市内のイベントを中心に出店をしています。近くにお越しの際はお気軽にお立ち寄りください。詳しくはホームページまたは下記のお電話でお問い合わせください。

 0463-75-3343